四、豊田講堂完成式典

◆『豊田講堂完成式綴　昭三五、五、九』

現在、本学事務局には『豊田講堂完成式綴　昭三五、五、九』と記された一冊の簿冊が保管されています。この簿冊は、完成式次第ほか式典開催に際して準備された書類等が約一九〇枚綴じ込まれており、巻末には当日配布された資料や豊田講堂完成を報じる当時の建築新聞記事（『日刊建設通信』一九六〇年五月一一日付）が添付されています。

本章では、この簿冊に基づいて、一九六〇（昭和三五）年五月九日に開催された豊田講堂完成式典について紹介したいと思います。

◆完成式典の準備

完成式典の具体的な準備は一九六〇年四月に入ってから行われました。右の簿冊に綴じられた資料によると、トヨタ自動車工業㈱、名古屋大学、竹中工務店の三者による初回の打ち合わせは四月四日に行われています。同日の打ち合わせにおいて、式の名称（名古屋大学豊田講堂

豊田講堂完成式典のようす

完成式)、開催日（五月九日)、式次第案、来賓祝辞依頼者、講堂紹介パンフレット作成などについて協議が行われています。

その後も数回の打ち合わせが行われていますが、式典準備関係書類のほとんどがトヨタ自動車工業㈱の社名入り書簡用紙を使用している点などから判断して、原案作成を同社が行った後に名古屋大学側との協議を行ったものと考えられます。

なお、四月二五日と同三〇日には、二回の式典リハーサルが行われています。

◆完成式典の出席者数

一九六〇年五月九日、いよいよ豊田講堂の完成式（竣工式）が開催されました。当日の記録によると、この式典に対する招待者数は五一八名で、このうち三三五名が出席しています。

招待者の出席者内訳は、中央官庁二名、愛知県内官公署一九名、中央・地方自治体一六名、大学関係二〇九名、諸団体一〇名、金融・証券会社六名、名古屋財界三名、報道関係一二名、

トヨタ関係二五名、施工者五名、その他二八名となっていました。

◆式典次第

資料によると、五月九日の豊田講堂完成式典は、午前一〇時から約一時間半の予定で開催されています（**表4**参照）。大学文書資料室には、講堂のステージ上に向って左側から順に名古屋商工会議所会頭、名古屋市長、愛知県知事、文部大臣、石田退三社長、勝沼精蔵前総長、松坂佐一総長、須川義弘建設委員、竹中錬一社長、槇文彦氏の席が用意され、式典が行われているようすを写した**写真**（三三頁）が残されています。

この完成式典について、須川は次のように回顧しています。

名古屋大学とトヨタ自動車工業株式会社合同で行った完成式は盛大で、文部省関係者は勿論、愛知県知事、名古屋市長、名古屋商工会議所会頭、国会議員など、大学が日頃お世話になっている各界の方々その他多数の来賓を迎えたが、その中に名古屋帝国大学創設の功労者である田中廣太郎元愛知県知事と初代総長渋沢元治先生のお元気な姿があったことは、この上なく嬉しいことであった。私もその年の三月に退官したが、建築委員は引き続き担当していた関係上、完成式には工事報告をした。

（須川『半生を顧みる』一四六頁）

表 4　豊田講堂完成式典次第

時　　間	順　　序	備　　考
10：00～	開式の辞	広　瀬　課　長
10：00～10：15	音楽演奏 (ハイドン「オックスフォード」)	名古屋放送管弦楽団
10：15～10：25	式辞	石　田　社　長
10：25～10：35	設立経緯について	勝　沼　前　総　長
10：35～10：40	工事経過報告	須　川　建　設　委　員
10：40～10：43	豊田講堂寄付目録贈呈	石田社長、勝沼前総長
10：43～10：48	感謝状贈呈 工事施工者　㈱竹中工務店 竹中　錬一 殿 講堂設計者　槇　文彦 殿	石　田　社　長
10：48～10：58	総長あいさつならびに感謝状授与 講堂寄贈者 トヨタ自動車工業株式会社 工事施工者　㈱竹中工務店 殿	松　坂　総　長
10：58～11：03	文部大臣祝辞ならびに感謝状授与 講堂寄贈者 トヨタ自動車工業株式会社	文　部　大　臣
11：03～11：15	来賓祝辞	愛知県知事 名古屋市長 名古屋商工会議所会頭
11：15～11：18	祝電披露	園　次　長
11：18～	万才三唱	愛　知　県　知　事
11：20	閉式の辞	広　瀬　課　長

(注)　式終了後　　1．講　堂　内　披　露（11：20～11：35）
　　2．カクテルパーティー（11：35～12：30）

◆感謝状の贈呈

さて、表4の式典次第の中には松坂総長による感謝状授与という事項があります。これは、豊田講堂の寄付を受けた名古屋大学として、寄付者であるトヨタ自動車工業㈱と工事施工者である㈱竹中工務店に対して感謝状を贈呈するというものです。学内に残された記録によると、それぞれの感謝状は次のような内容となっていました。

感　謝　状

トヨタ自動車工業株式会社
取締役社長　石田　退三殿

貴社は豊田佐吉翁の偉業を記念して近代建築として誇るべき講堂を寄付されました
本学は豊田講堂と命名し翁の創造精神を讃え教育研究の中心として学術文化の進展に寄与したいと思います
ここに厚く感謝の意を表します

昭和三十五年五月九日

名古屋大学総長　松坂　佐一

感謝状

株式会社竹中工務店
取締役社長　竹中　錬一殿

貴社は本学豊田講堂の建設にあたり豊富なる経験と優秀なる技術をもってよく寄付者トヨタ自動車工業株式会社の趣意を体し終始工事の完成に精進され本日ここに完工をみるにいたりました

よって厚く感謝の意を表します

昭和三十五年五月九日

名古屋大学総長　松坂　佐一

◆記念品の贈呈

写真（三八頁）は、豊田講堂をデザインした木彫りのブックエンドです。このブックエンドは、豊田講堂完成式典の際に、記念品として参加者等に贈呈されました。もちろん特別注文によって製作されたものです。

学内の記録によると、この記念品の準備についてはトヨタ自動車工業㈱が担当し、同社が㈱松坂屋に製作を依頼したとされています。その製作数は八〇〇個で、四月七日に発注して五月

三日に納品されたとの記録があります。

五、ランドマークとしての豊田講堂

◆寄贈「趣意書」

前章で紹介した簿冊『豊田講堂完成式綴』には、講堂の寄贈者であるトヨタ自動車工業㈱が準備した次のような「趣意書」が綴じ込まれています。

趣　意　書

世界的自動織機の発明者故豊田佐吉翁、および国産自動車工業の発展確立に貢献した故豊田利三郎氏、故豊田喜一郎氏は常に発明研究

記念品のブックエンド